

薬剤に耐性をもつイネいもち病菌 が発生しました

【背景・目的・成果】QoI剤(ストロビルリン系殺菌剤)はイネ病害防除の重要な殺菌剤として県内で広く使用されてきました。ところが、2013年7月上旬にQoI剤使用ほ場でいもち病が多発したため、薬剤感受性検定を行ったところ、県内広域で耐性菌が発生したことが明らかになりました。この結果を受けて、病虫害発生予察技術情報で県内全域のイネでQoI剤の使用自粛を要請し、生育初期からの徹底防除を呼びかけました。

1 イネいもち病は水稻生産の最重要病害

○イネいもち病はイネの葉や穂に感染し生育期間の大半で発生するため、甚大な被害が出ます。

○孢子を大量につくり、高温・高湿度条件であれば短期間で感染・発病を繰り返す上、孢子の拡散能力が高いため、速やかに蔓延します。



本田での多発状況



いもち病の分生子
葉身の病徴

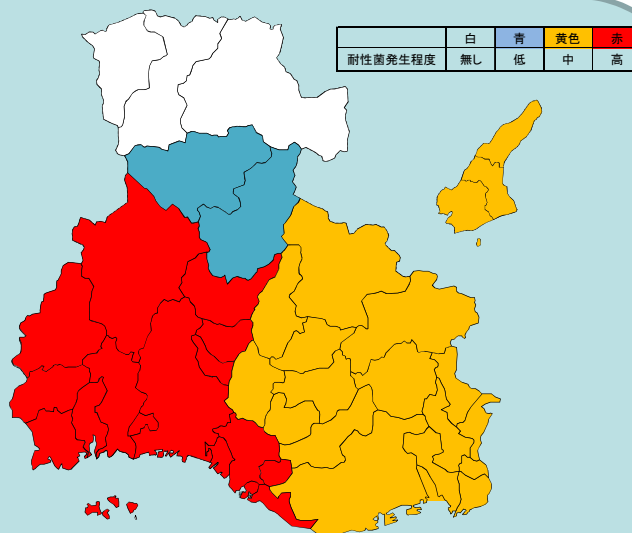
2 県内広域でQoI剤耐性菌の発生を確認

生育しなかったものを感受性菌と判定



生育したものを耐性菌と判定

薬剤添加培地での検定状況



QoI剤耐性菌の発生程度分布

- 耐性菌検出ほ場率71% (耐性菌検出39ほ場/調査55ほ場)
- 県西部で高い発生程度

3 QoI剤の使用自粛を呼びかけ

- 平成25年8月30日付け病虫害発生予察技術情報で県内全域にQoI剤の使用自粛を呼びかけました。
- 関係機関で使用自粛を申し合わせるとともに、兵庫県農薬情報システムにおいて水稻生産でのQoI剤使用を推奨しないこととしました。

【技術の活用】県内各地の耐性菌のモニタリングを行い、その分布を調査するとともに種子消毒剤、箱粒剤および本田防除剤の最適な組み合わせを検討します。